

## 3 支援活動の報告 (うきは市・八女市派遣職員)



### 3 支援活動の報告（うきは市・八女市派遣職員）

#### 平成 26 年度に派遣された本市職員による活動報告（4 名）

##### ◆うきは市派遣職員

	派遣先	氏名（職種）	（頁）
①	うきは市災害対策推進室（26/4/1～27/3/31）	吉谷 貴彦（土木）	78
②	うきは市災害対策推進室（26/1/1～27/3/31）	衛藤 勉（土木）	81

##### ◆八女市派遣職員

	派遣先	氏名（職種）	（頁）
①	八女市建設経済部土木災害復旧室（26/4/25～27/3/31）	川原 卓（土木）	84
②	八女市建設経済部土木災害復旧室（26/4/1～27/3/31）	北島 良（土木）	87

順不同、敬称略

## うきは市への派遣を終えて



派遣先	うきは市災害対策推進室
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	吉谷 貴彦
活動期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
支援活動	うきは市災害復旧支援

### 【はじめに】

前回うきは市へ第 5 陣の派遣として平成 25 年 10 月から 12 月までの 3 ヶ月間災害復旧業務に携わりました。

派遣が終わり北九州市に戻ってから何か引っかかるものがありました。うきは市で 3 ヶ月間協議資料や起工の準備をしてきたものの、現場に携わることができなかったことが原因だったかもしれません。4 月以降に再度声が掛ければまた派遣に行きたいと思っていましたが、北九州市に戻ると年度末ということもあって忙しい日々が続き、うきは市の事を気に掛ける余裕もなくなっていました。

そうしていると 4 月以降の派遣の公募が発表されました。

今回の派遣は危機管理室への異動が伴い、現職場を 1 年で異動することになるため立候補するか悩みました。できれば現職場であると 2、3 年はという気持ちがあったので派遣は見送ろうと思いましたが、前回の経験も生かせるし、うきは市の状況を考えると行くしかないと思い立候補しました。

最終的に衛藤氏（第 6 陣引続き）と平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの 1 年間の派遣になりました。

### 【業務の内容】

今回も前回と同様、公共土木災害復旧事業の担当で、前回は査定設計書を基にした実施設計書の作成、重要変更協議の資料作成といったデスクワークが主な業務でしたが、うきは市職員、派遣職員の努力が報われ 3 月末に工事発注を 100%達成したので、今回は現場監督の業務を行うものでした。

発注は 100%達成したものの完成率が 40.7%（公共土木災、箇所ベース）と半分にも達成していない状況だったため年度内完成に力を注ぐことが最重要業務でした。

しかし、他工事との調整や複数の受注等色々な条件が重なり着手出来ていない現場もあり、年度内完成できるのかと不安もありました。

現場監督の業務は、工事の受注業者の指導や現場調整、設計変更が主な業務で補助工事に付帯する市単独工事の精算（別契約）も行いました。

また、工事に関係する地権者との調整は当然ですが用地買収等の補償契約も業務の一つでした。

前回はうきは市職員と二人一組で作業をする事が多かったのですが、今回は各自現場を持っているということもあって単独で現場に行くことがほとんどでした。おかげでうきは市内の地理にも詳しく



写真① クレーン作業

ともたびたびありました。

工事の完成率が低いのもこのような現場条件の悪さが原因のひとつであると思います。

北九州市と違って工事成績評価を行っていないためか、施工業者の安全に対する意識や書類作成・提出などに指導を要することは少なく

なりました。

担当した工事は鹿狩川をメインに女子尾川等の河川災害と栗木野・探野線等の道路災害を担当し、中でも鹿狩川の現場は山間部で高低差もあり厳しい現場条件でした。写真①は高低差があるため大型クレーンを使用し工事を行っている状況です。

また写真②のように雨が降ると河川が増水し現場が浸水することが多く現場に入れないこ



写真② 現場の浸水



写真③ 完成

ました。工事の話をしていたらいつの間にか世間話しに変わっていてついつい長話しになることもあり、うきは市民のひとの良さをすごく感じました。

### 【職場の仲間】

一年間うきは市に住む事ができたおかげでいろいろな行事を見物し参加することができました。

うきは YOSAKOI 祭りは職員が率先して祭りを盛り上げ、消防操法大会は普段拝見できない真剣な表情を見ることができました。中でも災害対策推進室でチームをつくり私も選手として参加したうきは市民ロードレース（駅伝）は苦しさあり笑いありの楽しい大会でした。残念ながら入賞することはで

きませんでした。沢山の応援の中、福岡県、北九州市、うきは市、国土交通省と櫛を渡し完走できたことは良い思い出になりました。

### 【最後に】

赴任当初は一年間長いと思っていましたが、終わってみるとあっという間でした。これもうきは市職員みなさんにやさしく接してもらい、気遣って頂いたおかげで充実した生活を送ることができたからだと思います。

うきは市職員、派遣職員のみなさんと過ごした思い出を大切に、派遣で経験し学んだことをこれからの仕事、生活に生かして行きたいと思います。



写真④ 災害対策推進室チーム

最後にうきは市で二度と大災害が起こることがないことを祈り派遣報告とさせていただきます。



## うきは市への災害復旧支援に参加して



派遣先	うきは市災害対策推進室
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	衛藤 勉
活動期間	平成 26 年 1 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
支援活動	うきは市災害復旧支援

平成 26 年度から、今までの 3 ヶ月間の派遣から一年間に渡って、うきは市及び八女市に「九州北部豪雨災害復旧支援」を行う事が決まったのが、私がうきは市に派遣期間中（平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月）でした。

派遣期間中は災害工事の発注業務が主たる業務であったため、実際に災害復旧工事の監督業務を行い復旧支援に携わりたいと考えていたこと、被災し発注した工事現場がどのように復旧・完成するかを確認しなかったこと等があり、一年間の災害復旧支援に継続して参加することを決めました。

派遣当初時（昨年度）はいくつかの不安要素（業務・私生活）はありましたが、3 ヶ月間の派遣を無事に過ごせ、継続しての同じ市での復旧支援活動であったので、業務においては不安もなく、私生活においても家族も安心して一年間の派遣を承諾してくれました。

平成 26 年度からの復旧支援活動は、今まで発注していた工事の監督業務です。

私は、「普通河川 小間坊川」と言う 1 河川（3 工事）を担当することになりました。担当河川は、うきは市の南東に位置する「田籠（たごもり）」と言う地区（庁舎から車で 40 分程度）の山間部を流下する河川です。

施工箇所は谷が深く、市道から被災箇所までの高低差が 15m 程度はある難工事箇所です、未着手であったので、施工箇所を受注者と立会し、進入路の位置・形状を決定することから復旧支援活動が始まりました。

工事着手後は、淡々と監督業務を行い、支援活動をしていくと思っていましたが、監督を行う上で必要な基準を、うきは市では定められていないケース（各監督員でのバラつき有）も出てきたため、基準作成を行う業務を行ったこと、北九州市ではごく普通に行っていた工事成績評定がなかったため、今年度から行う試行運用会議に出席したこと等、当初は思ってもいない業務を行い、自分にとっても良い経験が出来ました。

その中でも、工事監督業務以外で行った業務において、「小塩地区 ホテル復活プロジェクト」に参加できた事が印象に残っています。派遣後、半年経過した時期に当初の担当工事以外に 2 河川（2 工事）が追加され、小塩地区も担当することになった事が要因です。この小塩地区はうきは市内でもホ

タルが有名な地区ですが、豪雨災害時、河川災害復旧工事の影響等により、年々飛翔数が減っているため、河川災害復旧工事が完成しつつある現時点から人工的にホテルを復活させるためのプロジェクトです。

プロジェクトは、地元自治協議会が主体ですが、うきは市も連携し、地元小学校も含めてのプロジェクトで、北九州市のホテル館への視察、全国ホテル研究会会長を迎えてのホテル復活勉強会（小学校授業）、小学生と災害復旧現場への現場視察等に参加しました。プロジェクトに参加した事により、平成 24 年の豪雨時に撮影されたビデオを視聴することが出来ました。田圃、道路を濁流する河川氾濫状況が撮影されており、災害当時の激しさを知りました。

ホテル復活勉強会

(小塩小学校の全生徒、父兄、地元住民参加)



災害復旧現場視察

(小塩小学校の3年生、地元住民参加)





災害復旧工事の監督業務は、河床形状を特に留意しました。河川本来の形状（より自然に近い形状）になるよう、受注者と協議し施工をお願いしました。プロジェクトに参加したことにより、より一層生態系への配慮を考えました。

また、工事完了した箇所の際接地権者から、「良い河川になりました。ありがとうございます。」と言われた時、「少しでも災害復旧支援に協力できた」と支援活動の一番大事な事を実感しました。

派遣期間中は、うきは市災害対策推進室を始め、うきは市職員に業務上だけではなく、私生活まで充実した日々を過ごさせてもらい感謝し、危機管理室においても昨年に引続き十分なバックアップをしてもらい、特に苦もなく派遣期間を終えられる状況に感謝したいと思っています。

まだまだ、豪雨災害の被災箇所（市単独箇所）も数多くあり、被災箇所の復旧には年月を要すると思いますが、うきは市職員による素晴らしい復旧工事で豪雨災害以前よりも素晴らしい風景になり、小塩地区でもホテルが無数に飛翔する事を願いたいと思います。

工事完成写真（小間坊川）



## 八女市災害派遣の報告



派遣先	八女市建設経済部土木災害復旧室
所属	北九州市危機管理室危機管理課
氏名	川原 卓
活動期間	平成 26 年 4 月 25 日～平成 27 年 3 月 31 日
支援活動	災害復旧業務

### 【はじめに】

平成 24 年 7 月 11 日から 14 日にかけて、福岡県、熊本県、大分県、佐賀県で記録的な大雨は、甚大な被害をもたらした。八女市黒木町では、14 日 11 時 30 分までの 24 時間降水量が 486.0 ミリを観測し、観測以来 1 位を記録。八女市において、死傷者 10 名、家屋被害 1,322 件の被害をもたらしたこの豪雨は「平成 24 年 7 月九州北部豪雨」と命名され、2 年が経過した今もなお市内各所にその爪痕が残ったままだ。

平成 26 年 3 月末頃、八女市へ災害派遣の話があった。以前、災害派遣された方から、八女市での業務や生活の話はどことなく聞いていたが、北九州市での災害復旧経験もなく、災害復旧研修を受けた程度。災害復旧業務が自分に務まるか不安だった。八女市は出身地からも近く地理的な不安は、特に感じなかった。久々に聞いた方言に懐かしさと新鮮さを覚えた。

### 【災害派遣業務】

八女市派遣前任の方々のおかげで、災害復旧工事の発注業務はほとんどなく、現場監督業務を主に行った。赴任して 1 ヶ月は、工事現場までの道順を覚えるのに必死だった。山道で目印もない三叉路で何度か、迷子になりながら、現場に向かった。土砂崩れ、路肩の崩壊、河川工事の影響で通行止めであった主要な道路も徐々に交通規制が解除された様だが、未だに通行止めの箇所も点在し、いたるところに交通規制の看板を見かけたのが印象的だった。

現場監督業務については、基本的に北九州市で行っていた監督業務と変わりなく、違和感なく進めることができた。

災害復旧工事全体件数に対して、建設会社数が少ないため、複数の現場を掛け持ちしている状況であった。現場代理人に電話をするも「他の現場にいるので、まだそちらに着工できていません。」の会話も多々あった。作業スピードは、さすがの速さで石積みがどんどん積み上がるのには驚いた。見栄えも良好。

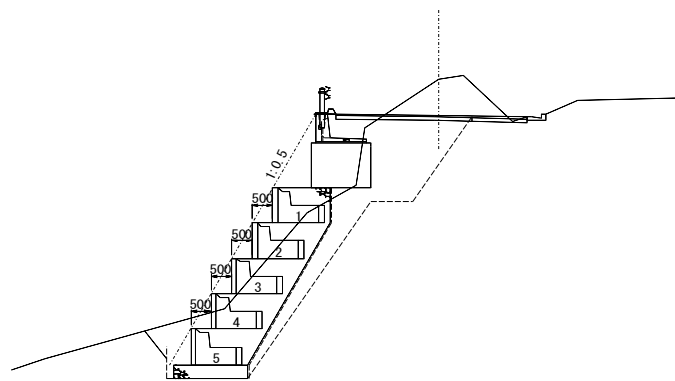
道路路肩が被災した箇所では、補強土壁工・箱型擁壁工など、北九州市でも経験したことがなかった工法を現場監督できた。



道路災害（石原・鹿子生線）着手前



道路災害（石原・鹿子生線）完成



道路災害（石原・鹿子生線）横断面図

河川災害復旧の現場では、被災前の河川の形がほとんど残っていない箇所も多く、地元の方々と立会いながら、復旧箇所位置確認を行った。現地に残存する石をそのまま護岸復旧に使う現場もあれば、コンクリートブロックで復旧する現場もある。コンクリートブロックで復旧した護岸は、隣り合う既存の護岸に比べ真っ白で、いかにも復旧工事完了しましたと言わんばかりの白光りである。

河川沿いの道路を走ると復旧工事した箇所が、一目で判る。自然との調和も大事であるが、災害査定方法に沿って迅速な復旧が求められ、強固で今後また被災しないものを作ろうとすると、本来の景観へ戻すことの難しさを感じた。

### 【北九州市に必要なこと】

天災は、忘れた頃にやって来る。

備えあれば憂いなし。

喉もと過ぎれば熱さを忘れる。

災害に時なし、場所なし、予告なし。

今後、いつ起こってもおかしくない自然災害に対して、常に高い防災意識で「準備」をしておく。

公共施設にあつては、適切な維持管理、耐震対策、継続して行うことの必要性を感じた。

特殊な災害復旧業務経験者を一人でも増やすことは、災害が発生した後に迅速な対応が求められる重要なところである。

情報化社会の中で、防災情報の発信も進められている。情報の受け手側が、その情報をもっと有効活用できるように、受け手側の防災意識を高めることは、発信する側の使命だと感じた。

### 【最後に】

今年度から、派遣期間が1年間であった。派遣前任の方々が3ヶ月の派遣期間のなかで、災害査定から工事設計・発注業務、現場監督業務までの成果を見直すと、その業務量と短期間での苦労が見受けられた。

今年度の派遣で八女市への職員派遣も終わる。いくつかの担当現場竣工に立会えずに帰北するのが心残りである。

また八女市派遣にあたってサポートして下さった皆様、一年間留守にしていた家族、また、八女市職員の皆様に、感謝申し上げます。



## 八女市災害復旧支援活動報告



派遣先 八女市建設経済部土木災害復旧室  
 所属 北九州市危機管理室危機管理課  
 氏名 北島 良  
 活動期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日  
 支援活動 八女市 公共土木災害復旧支援

### 【はじめに】

平成24年7月11日～14日に発生した九州北部豪雨に伴い、本市では平成25年4月から八女市に職員を派遣し、災害復旧支援を行っている。

私は平成26年3月中旬に八女市派遣の話をいただいた。災害についての知識と経験が無いどころか、まだまだ土木職全般において未熟なため、自分に務まるのかどうか不安はあったが、それ以上に勝ったのは好奇心であった。翌日に返事をし、平成26年4月1日～平成27年3月31日までの1年間、八女市建設経済部土木災害復旧室にて災害復旧に携わった。

### 【被災状況】

右図は、激甚災害に指定された公共土木施設災害復旧事業費（国交省管轄）の比較である。その事業費は、東日本大震災で被災した釜石市、陸前高田市に次ぐ額であり、八女市にもたらした自然災害の脅威を物語っている。

「八女市公共土木施設災害復旧事業費と激甚災害指定の他自治体公共土木施設災害復旧事業費（国交省管轄）との比較」

発生年度	都道府県	市町村名	被災対象事業費（千円）
H23	岩手県	釜石市	6,951,034
H23	岩手県	陸前高田市	6,785,314
H24	福岡県	八女市	6,550,315
H23	岩手県	宮古市	5,375,864
H23	岩手県	大槌町	4,032,124
H23	和歌山県	田辺市	3,109,675
H23	岩手県	大船渡市	2,992,158
H23	岩手県	一関市	2,101,929
H23	和歌山県	日高川町	2,060,828
H23	和歌山県	みなべ町	1,060,988
H23	和歌山県	新宮市	939,274
H23	和歌山県	那智勝浦町	929,801
H23	岩手県	奥州市	881,037
H23	岩手県	久慈市	278,259

### 【平成24年災進捗】

下表は平成24年災の完成進捗状況（平成27年2月末）である。平成26年6月、発注契約率は100%を達成（一部県委託を除く）した。被災から3年を迎えようとしているが、今年度の完成率は60%程度となった。遅れが生じている原因として、人員不足、他工事との調整による着手見送りや耕作時期の施工規制、査定申請外の単独費工事等があげられる。また、現場内外問わず車両の通行が不可能な箇所が多く、田畑を潰しての工事用仮設道路の造成・耕地復旧が必要となるため、それによるロスも大きな要因となっている。

事業区分	災害査定箇所数 A	廃工箇所数 B	実施対象箇所数 C (A-B)	実施箇所数 D	実施率 (契約率) (D/C)	完成箇所数 E	完成率 (E/C)
公共土木施設災害復旧事業	609	2	607	607	100%	338	55.7%
農地・農業用施設災害復旧事業	464	34	430	429	99.8%	265	61.6%
林道施設災害復旧事業	63	0	63	63	100%	53	84.1%
合計	1,136	36	1,100	1,099	99.9%	656	59.6%



### 【主な業務】

派遣当初、最初の業務は工事の発注。災害復旧事業は、被災発生年を含め3か年度以内の施行年限があり、平成24年災は今年度がその3か年目にあたるため、早急な発注・契約を要した。その後6月以降の主な業務は、現場監督から竣工までの業務であった。

写真-1 被災後写真(道路・河川)



左の写真-1の被災前は写真左側に道路が、右側に河川があったという。原形復旧が基本となる災害復旧事業だが、荒れ果てて原形がつかめない箇所も多く存在した。現地精査や地元要望等により変更が生じることもあるが、査定決定内容からの変更はなかなか容易ではない。被災から査定までの短期間でこれだけの数をとると思うと、当初の工事内容に多少の誤測・違算があることは仕方がないことなのかもしれない。現場では別途単独費による対応、県庁協議を重ねて修正・変更対応してきた。

写真-2 補強土壁(多数アンカー工法)



写真-3 河川護岸復旧(景観地区)



写真-4 河川護岸復旧



写真-2は地すべりした箇所において、補強土壁工法を用いた復旧を行う現場である。

河川災の復旧では（1）被災原因を最小限の復旧で除去する。（2）河川環境の保全。に留意する必要がある、そのほか写真-3のよう棚田の観光地であるところは、河川護岸に現地採取した石を用いて景観も考慮したうえでの復旧を行なっている。

一方で、写真-4のように景観地区以外では既設護岸、新設石積み・各種のブロック積みが混在しており、とくに短い延長で多工区に分かれる復旧工事では際立って違和感がある。

1年という長い派遣期間では、24年災以外にも、平成25年災復旧工事、平成26年災査定申請及び発注、7月に行われた成功認定、単独費による多数の復旧工事発注・監督業等、災害における様々な業務を経験できた。一連の流れを経験できたことは大きい。

### 【星のふるさと星野村】

八女市は6つの市町村が合併しており、そのなかでも私が担当した星野村の紹介を少し。

星野村は、面積81.28㎢、人口約2,800人。星野支所の近くには、星の文化館（天文台・プラネタリウム）、茶の文化館、キャンプ場、温泉等の施設がある。総面積の大半を山林が占める自然豊かな村であり、村名のとおり美しい星空を見ることができるとで有名。壮大なお茶畑や棚田も見応えあり。ぜひ一度お越しを。

### 【最後に】

全国各地で自然災害が頻発している今日。平成24年7月の経験を教訓に、突如襲う災害に対応すべく八女市役所内では防災の意識が高い。各所への連絡体制がとれており、迅速な動きが見て取れる。また、現場立会等住民と話す機会を思うことは、当地ならではの、人と人との繋がりが深いこと。施設の維持管理等で対応できるものがあれば、それを超える災害がくることも十分に考えられる。市職員と住民、住民同士が近い存在であり、これは強いと感じるところがあった。

八女市土木災害復旧室は、「早期復旧」のもと、職種に関わらず統一感に満ち溢れた職場であった。本来、支援するための派遣であるが、私は知識も経験も乏しかったために、とても即戦力として支援することはできなかった。しかし「災害～復旧」そして「派遣」という非日常の場にいた1年で学んだことは大きく、自身にとって貴重な経験を積むことができた期間であった。

平成27年度をもって、土木災害復旧室は解体する予定となっている。「合併したばかりで起きたこの災害は、新・八女市をひとつにするためのいいきっかけだと思っている。」ある八女市職員の言葉だった。

八女市派遣期間にご支援いただいた北九州市及び八女市の皆様に感謝申し上げますとともに、美しい八女市が一日でも早く帰ってくることを願っている。

